

【職員記入欄】

(この項目は農林水産省の職員が記入
します。)

階層区分	1	2
------	---	---

畜産統計調査 肉用牛調査票

(平成28年2月1日現在)

<畜産統計調査とは>

主要家畜（乳用牛、肉用牛、豚、採卵鶏及びブロイラー）に関する規模別・経営タイプ別飼養戸数及び飼養頭（羽）数等を把握し、我が国の畜産生産の現況を明らかにするとともに、畜産行政推進のための基礎資料を整備することを目的として実施しています。

<調査結果の秘密の保護>

この調査で得られる調査結果は、統計を作成するためだけに使われ、課税等の資料に用いることは、法律で固く禁じられており、調査結果を他に漏らしたりすることはありません。

<記入に当たっては、以下のことに注意してください>>

- 黒の鉛筆又はシャープペンシルを使用してください。
- で囲まれた記入欄は集計項目ですので、必ず記入してください。
ご記入に当たっては記入見本を参考に、数字は枠からはみ出さないように、また、○印は点線に沿うように記入してください。

記入見本

0

1

2

3

4

5

6

7

8

9

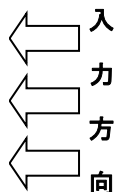
①

②

③

- で囲まれた記入欄は補助欄ですので、必ずしも記入の必要はありませんが、飼養実態などを調査票に正しく御記入いただくために活用してください。
- ～ 調査や調査票の記入の仕方などに関するお問い合わせは、
下記の「連絡先」までお問い合わせください。～

【連絡先】



【職員記入欄】（この項目は農林水産省の職員が記入します。）

調査年	都道府県	管理番号	市区町村	整理番号	抽出階層
基本指標番号	:	:	:	:	:

4 6 2 1

1 目的別飼養頭数

2月1日現在、飼っている肉用牛の頭数を種類別に記入してください。

肉用牛計 (2)+(3)+(4)	肉用種	交雑種 (F1・F1クロス)	乳用種
(1)	(2)	(3)	(4)
:	:	:	:

乳用種のうち、**めすの頭数**を記入してください。

(5)
:

記入のポイント

肉用種 (2)

肉用種には、主に以下の牛が含まれます。

- 和牛（黒毛、褐毛など）
- 外国系の肉専用種（ヘルフォード、アパデイン Angus など）
- 和牛同士の交雑
- 外国系同士の交雑
- 和牛と外国系の交雑
- ET（受精卵移植）によって生産された牛

交雑種 (3)

交雑種には、以下の牛が含まれます。

- F1牛（乳用種のめすに、肉用種のおすを交配して生産された牛）
- F1クロス牛（F1牛のめすに、肉用種のおすを交配して生産された牛）

乳用種 (4)

ここでいう乳用種とは、**肉用を目的として飼っている乳用種**の牛をいいます。

- 乳用種のおす
- 未経産の乳用種のめす（搾乳を行わずに肥育する予定のめす牛）
- ET専用の母牛として飼養している乳用種のめす

注：搾乳経験のある牛で肉用として肥育中の乳廃牛及び将来搾乳する目的で飼養している子牛はこの調査票の乳用種(4)には含みません。→ 乳用牛調査票で把握しています。

肉用種について、目的別に頭数を記入してください。

肉用種計 (7)+(8)+(9) (= (2))	育成牛 (出荷予定の子牛)	肥育牛 (種おす牛含む)	子取り用めす牛 (繁殖予定の子牛含む)
(6)	(7)	(8)	(9)
:	:	:	:

(9)と同じ値が入ります

記入のポイント

育成牛 (7)

もと牛（おおむね、8か月齢～10か月齢）として出荷する予定の子牛で、ほ育中又は育成中のものをいいます。

注：ほ育中又は育成中の子牛であっても、引き続き自家で肥育を行う予定のものは**育成牛(7)には含みません**。→ 肥育牛(8)となります。

肥育牛 (8)

肉用として出荷する予定の牛をいいます。

- 肥育中の牛
- ほ育中又は育成期間中の子牛のうち、引き続き自家で肥育まで行う予定のもの。
- 種おす牛

子取り用のめす牛 (9)、(10)

繁殖目的で飼養しているめす牛のほか、今後繁殖用とする予定でほ育中又は育成中の子牛をいいます。

注：繁殖牛であっても、今後繁殖を行う予定がなく既に肉用として肥育中の牛は**子取り用めす牛(9)(10)には含みません**。→ 肥育牛(8)となります。

子取り用のめす牛について、年齢区分別に頭数を記入してください。

子取り用めす牛計 (11)+(12)+(13)+(14) (= (9))	(10)
1 歳 未 満 (～11か月齢)	(11)
1 歳 (12か月齢～23か月齢)	(12)
2 歳 (24か月齢～35か月齢)	(13)
3 歳 以 上 (36か月齢～)	(14)

以下の2～4の項目については、表紙の階層区分が「1」の場合のみ記入してください。

2 経営タイプ

2月1日現在の該当する経営タイプを、番号1～7から一つ選択し、点線に沿って○で囲んでください。

肉 用 種 経 営				乳 用 種 経 営		
子 取 り	肥 育	一 貫	そ の 他	育 成	肥 育	一 貫
(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	(21)
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)

💡 記入のポイント 💡

肉用種経営 (15)～(18)

肉専用種の飼養を主とする経営をいいます。

- 種おすのみの飼養を行っている場合は、肥育経営となります。
- 育成のみを行っている場合は、その他の経営となります。

乳用種経営 (19)～(21)

肉用を目的とした乳用種及び交雑種（F1、F1クロス）の飼養を主とする経営をいいます。

- 育成：生後1～2週間の牛を導入し、肥育用のもと牛として農家等へ出荷するまで飼養
- 肥育：もと牛を導入し、肉向けとして出荷するまで飼養

3 経営耕地・飼料作物の作付実面積状況

過去1年間について、経営耕地面積及び飼料作物の作付実面積を記入してください。

経 営 耕 地 面 積									
(22) ha a									
:	:	:	:	:	:	:	:	:	:

経営耕地面積のうち、飼料作物を作付けした実面積を田畑別に記入してください。

飼 料 作 物 の 作 付 実 面 積									
飼料面積計（実面積）									
(23) ha a									
(24) ha a									
(25) ha a									
:	:	:	:	:	:	:	:	:	:

経営耕地面積 (22)

経営耕地面積には、飼養者の方が農作物の栽培のために所持している土地（借入地も含む）の合計を記入してください。

経営耕地には、肥培管理（播種や耕起）を行っている牧草専用地も含まれます。

なお、借入地には、賃借料を払って又は無償で借り入れている土地を含みます。

飼料作物の作付実面積 (23)

経営耕地のうち、飼料作物を作付けした実面積を記入してください。

飼料作物とは、飼料とするための飼料米、牧草、青刈りとうもろこし、ソルゴー、青刈り麦類などをいいます。

飼料作物を作付けした実面積のうち、**借入地への作付け**がありましたら、**実面積**を田畑別に記入してください。

田の借入地									
(26) ha a									
:	:	:	:	:	:	:	:	:	:

畑の借入地									
(27) ha a									
:	:	:	:	:	:	:	:	:	:

4 放牧の状況

過去1年間に放牧した肉用牛の頭数を記入してください。

放 牧 頭 数									
(28)									
:	:	:	:	:	:	:	:	:	:

放牧頭数のうち、**成牛の頭数**を記入してください。

(29)									
:	:	:	:	:	:	:	:	:	:

💡 記入のポイント 💡

放牧頭数 (28)

放牧頭数には、牛を運動させることを主な目的とした、**運動場などで放し飼い**を行っている牛は含めません。

成牛の頭数 (29)

- 成牛とは、以下の牛をいいます。
- 2歳（24か月齢）以上の牛

◎ 調査に御協力いただき、大変ありがとうございました。
調査事項はここまでですが、お手数でなければ裏面の【記事欄】にも御記入願います。

【記事欄】

差支えなければ、飼養頭数の増減理由等について御記入願います。

SAMPLE